

2021年2月22日

損害保険ジャパン株式会社
株式会社プライムアシスタンス

「自動運転車向け遠隔見守りサポートアプリ」の開発と実証実験の実施

損害保険ジャパン株式会社（代表取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン」）と株式会社プライムアシスタンス（代表取締役社長：徳岡 宏行、以下「プライムアシスタンス」）は、新たに「自動運転車向け遠隔見守りサポートアプリ」（以下「SOMPO自動運転見守りアプリ」）を開発しました。2021年1月に実施された「塩尻型地域新Ma a S×自動運転実証プロジェクト^{※1}」において、「SOMPO自動運転見守りアプリ」を活用して遠隔型自動運転運行サポート施設「コネクテッドサポートセンター」（東京都中野区）から長野県の塩尻駅周辺を走行する「複数台の自動運転車を対象に見守りサポート提供の実証実験」（以下「本実証」）を行いました。

※1 「塩尻型地域新Ma a S×自動運転実証プロジェクト」の概要

https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/topics/2020/20200817_3.pdf?la=ja-JP

1. 開発の背景

損保ジャパンは2018年9月に「コネクテッドサポートセンター」をプライムアシスタンスに開設しました。2019年2月には自動運転サービスの導入を支援するインシュアテックソリューション「Level IV Discovery」^{※2}の共同開発に向けて、自動運転システム開発の株式会社ティアフォー（代表取締役社長：武田 一哉、以下「ティアフォー」）および高精度三次元地図製作のアイサンテクノロジー株式会社（代表取締役社長：加藤 淳、以下「アイサンテクノロジー」）と業務提携契約を締結し、これまで全国70箇所以上で自動運転実証実験に参画するなど、安心・安全な自動運転の社会実装に向けた取組みを進めています。

「官民ITS構想・ロードマップ2020」では2020年までに無人自動運転移動サービス実現の期待が示され、自動走行ビジネス検討会（経済産業省・国土交通省）では無人自動運転移動サービスの実現に「遠隔監視」が前提とされています。

損保ジャパンとプライムアシスタンスは、「複数台の自動運転車の走行を遠隔で見守り、事故やトラブルの未然防止や発生時の被害軽減を図るとともに、緊急時に能動的なサポートを行う」サービスの開発と事業化を目指しています。本サービス実現には、「車両から得られる情報から異常を検知し、該当する車両を特定するシステム」の開発が必要となるため、今般、損保ジャパンとプライムアシスタンスは、ティアフォーからAPI提供ならびに開発支援を受け、デジタル戦略部Sprintチーム^{※3}とともに、「SOMPO自動運転見守りアプリ」を開発しました。

※2 インシュアテックソリューション「Level IV Discovery」

https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/news/2018/20190215_1.pdf?la=ja-JP

今回の開発は、本ソリューションの核である、事故の「予防」「監視（見守り）」「補償」のうち、「見守り」のサービスを進化させるものです。

※3 SOMPOホールディングスのデジタル戦略部に所属するDXアジャイル内製化組織

2. 「SOMPO自動運転見守りアプリ」の主な機能

- (1) 複数台の走行車両に対する遠隔見守り
- (2) 走行地点の地図情報・走行車両の位置情報の取得
- (3) 異常検知（該当車両の特定・警告音）
- (4) 乗客、レッカー会社等との通話

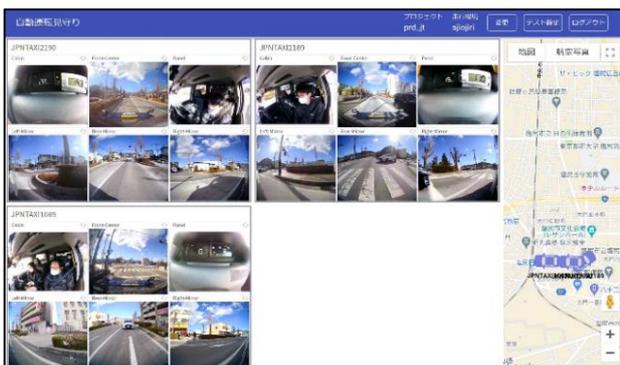
<活用方法>

1人のオペレーターが、同時に走行する複数台の自動運転車を遠隔地から見守り、必要となるサポートを迅速に提供するサービスの構築に向け、実証実験において活用します。

具体的には、自動運転車の走行中に事故やトラブルが発生した場合に、コネクテッドサポートセンターのオペレーター画面に異常検知アラートが出現、画面をワンクリックすることで「遠隔見守り画面」から「トラブルサポート画面」へ遷移し、自動運転車の状況を把握するとともに、オペレーターから能動的な乗客への呼びかけや、走行不能となった自動運転車のレッカー手配などを提供します。

<画面イメージ>

・「遠隔見守り画面」（異常無し）



・「遠隔見守り画面」（異常を検知）



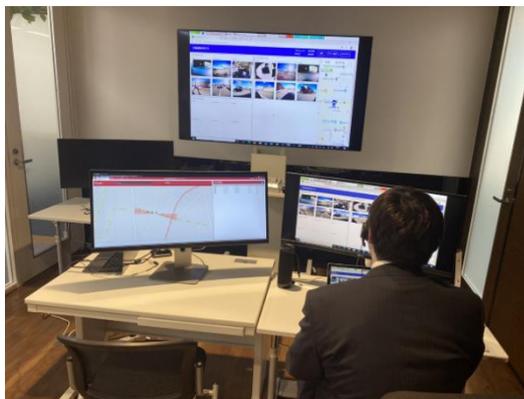
3. 実証実験の概要

本実証は塩尻市、一般財団法人塩尻市振興公社、ティアフォー、アイサンテクノロジーをはじめとする「塩尻型地域新MaaS×自動運転実証プロジェクト」に参画する企業の支援を受け実施しました。

- (1) 実施日 : 2021年1月12日～2021年1月20日
- (2) 場所 : コネクテッドサポートセンター（東京都中野区）および長野県塩尻駅周辺
- (3) 実施内容 : コネクテッドサポートセンターから「SOMPO自動運転見守りアプリ」を活用して、①②の実証実験を実施
 - ① 走行する複数台の自動運転車に対する遠隔見守り・乗客とのコミュニケーション
 - ② 緊急時のトラブルサポートサービス
 - ・ 異常検知により画面上でアラートが発生した車両の特定
 - ・ 通話機能を活用し、乗客へ呼びかけ、レッカー会社を手配し該当車両を積載搬送

<実証実験の様子>

- 東京（プライムアシスタンス内）
 - ・コネクテッドサポートセンター



- 長野県塩尻駅周辺

- ・乗客
- ・自動運転車



- ・レッカー搬送される自動運転車



4. 今後の展開

「SOMPO自動運転見守りアプリ」を活用した実証実験を継続し、2021年度中に機能の改善・拡充を図り、2022年度以降に施設内、2025年度以降^{※4}に公道で走行する自動運転車の遠隔見守りにおいて、「SOMPO自動運転見守りアプリ」の実用化を目指します。また、自動運転車のほか、自動搬送ロボットの遠隔見守りでの活用も視野に、コネクテッドサポートセンターにおける次世代モビリティ実装に向けた研究開発を進めていきます。

※4 官民ITS構想・ロードマップ2020において、2025年度を目途に限定地域での無人自動運転移動サービスが拡がる可能性があるとしてされています。

以上